

キクわい化病感染の品種間差異及び根部からの伝染

十川和士・松本由利子・大矢啓三*・山下泰生・中西正憲

香川県では 20 年ほど前からキクわい化病の発生が見られ、品質を著しく低下させ問題となっている。そこで、耕種的防除を行う上で、キクわい化病感染の品種間差異および罹病株の根部からの伝染について検討を行った。

1. 県下で栽培されている主要品種 6 品種は、いずれも抵抗性品種は認められなかった。しかし、発病率や潜伏期間には品種間に差が見られ、「秀芳の力」は発病しにくくしかも潜伏期間も長かったのに対して、「精興黄金」は発病しやすく潜伏期間も短かった。

2. キクわい化病は、乾燥残渣すき込みによる土壌からの伝染は認められなかったが、罹病苗根部との接触や生根残渣からは容易に伝染した。

キーワード:キク,キクわい化病,CSVd